

# 全国障害者問題研究会北海道支部 第40回 支部学習会 開催要項

記念すべき40回目の全障研北海道支部学習会を開催する運びとなりました。

今回は、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催年に北海道で全障研全国大会を行う道支部として、道内の会員の皆様と様々な視点から議論を重ねるだけでなく、映画で情勢にふれます。オリンピック・パラリンピックは、障害者やLGBTなどのマイノリティを差別、排除しない取組でもあり、昨今、サプライヤーとしての企業を中心にLGBTへの前向きな対応が広がっています。このような動向をふまえ、1日目にシンポジウム・分科会を行い、2日目は会場を映画館に移し、<LGBTのいま>を捉えた映画の鑑賞とトークなどによって皆さんと爽やかな時間を共有したいと考えております。皆様お誘いあわせのうえご参加いただき、来るべき全国大会に向けて、ご協力いただければ幸いです。ご来場、お待ちしております。

(全障研道支部 事務局長 寺田有紀)

◇主催：全国障害者問題研究会北海道支部

◇後援：北海道 北海道教育委員会 社会福祉法人北海道社会福祉協議会 (含申請中)

◆日時 2018年9月15日(土)～16日(日)

◆内容・会場 \*15日と16日の会場は違います。ご注意ください。

1日目：9月15日(土) 会場：札幌学院大学 1号館  
(江別市文京台11番地)

09:30～10:00 受付

10:00～12:00 シンポジウム

「社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)と発達保障」

話題提供：高井賢二氏(あさかげ生活支援センター施設長)

藤田明宏氏(特別支援学校教員)

大橋伸和氏(場面緘黙・ひきこもり経験者)

コーディネーター：戸田竜也氏(北海道教育大学釧路校 准教授)

「社会的包摂」(ソーシャル・インクルージョン)が重要なキーワードになる中、社会から排除や差別が無くなりません。人々が排除される背景に何があるのか。教育や福祉はそれをどう乗り越えるのか。全面発達を阻害する背景を分析し、これからの社会の在り様について議論します。

## 13:00～15:30 分科会

### • 分科会1：新学習指導要領と障害児教育

共同研究者：佐藤 満氏（札幌学院大学人文学部人間科学科教授）

外国語科、道徳教育などが話題の新学習指導要領。「アクティブラーニング」など理念の言葉と、理念を具体的な時間割に落とし込んでいく作業の部分が混同されている感があります。まずはちょっと立ち止まって整理してみませんか。この時期に、再度、児童生徒の学び、とりわけ思考力・判断力・表現力の意味を皆さんと確認し合いたいと思います。

### • 分科会2：発達障害の豊かな世界

共同研究者：小淵隆司氏（北海道教育大学釧路校 准教授）

二通諭氏（札幌学院大学人文学部人間科学科教授）

大橋伸和氏（場面緘黙・ひきこもり経験者）

発達障害や精神的な困難を抱える子ども・青年・大人の可能性を切り開く実践、当事者の努力と工夫について典型例をもとに交流します。

### • 分科会3：誰もが普通に生きていける社会とは？

共同研究者：村田 修氏（全国障害者問題研究会北海道支部運営委員）

報告者：加藤法子氏（児童発達・放課後等デイサービス事業運営者）

北村典幸氏（きょうされん常任理事）

この分科会では2つの切り口で進めて行きます。加藤さんは最近の放課後デイの課題を通して大人になるまでの支えについて、北村さんには優生思想がなぜ歴史の中に生まれ、今現在においてどのような形で続いているか、について話していただきます。人生のどの時期にあっても人権が保障される社会の在り方などを、報告を元に共同研究者の村田さんと報告者、参加者の方々ともセッションしたいと思います。

### • 特別分科会：「若者」の願いを聴く

語り手：「チャレンジキャンパスさっぽろ」のみなさん

聞き手：戸田竜也氏（北海道教育大学釧路校 准教授）

「学びの作業所」チャレンジキャンパスさっぽろ3年生のみなさんから、願いや夢、そして現在の生活から考えていること等をお聴きし、青年期に求められる「学び」と「生活」を考えます。

## 15:45～16:30 全障研北海道支部総会～2020 全国大会に向けて～

2 日目 : 9 月 16 日 ( 日 ) 会場 : 札幌プラザ 2 ・ 5

(札幌市中央区南 2 条西 5 丁目 狸小路商店街)

映画とトークで一日まるごと LGBT  
～セクシュアルマイノリティをみんなで学ぶステキな日～

熱く詳しい解説は  
次ページ!

10:30～11:20 「カランコエの花」上映 (二通諭氏の解説あり)

11:25～12:00 二通諭のシネマトーク「映画の中の性的マイノリティ」

13:00～14:20 「女になる」上映 1 回目

14:30～15:30 さわやかトーク

「私は私のままで生きるー映画『女になる』が問うものー」

(中川未悠氏・満島てる子氏・日野由美氏 司会:二通諭氏)

16:00～17:20 「女になる」上映 2 回目

◆参加費

参加日・時間	全障研会員	非会員	学生
9/15 (土)	¥800	¥1,000	¥500
9/16 (日) 午前 「カランコエの花」	¥400	¥400	¥400
9/16 (日) 午後 「女になる」	¥800	¥800	¥800

\*映画会に入場される学習会参加申込者は、上記の通り一律に「全障研団体料金」が適用されます。全障研道支部では、上記団体料金を適用した前売券も用意しております。

\*参加費は、事前にお振込みください。(振込先は申込書に記載しています)当日、各会場の受付でもお支払いいただけます。

◆参加申し込み・お問い合わせ

別紙「参加申込書」の必要事項を記入の上、FAX または E-mail にてお申し込み下さい。

FAX : 0154-64-7061 E-mail : zensyoken\_doushibu@yahoo.co.jp

申込み締切 : 9月7日 (金) \*介助希望有りの方は、8月31日 (金)

お問い合わせ : 全障研北海道支部 事務局携帯:080-3291-0300

\*留守番電話の場合は、お名前・お電話番号をお話し下さい。折り返しお電話します。

全国障害者問題研究会 (全障研) 入会について

年会費¥3,000 円で、「全障研北海道支部会報」年 6 回、「全障研しんぶん」年 12 回、各種研修案内がお手元に届きます。また、全障研主催の学習会の参加費が割引となります。

\*参加申し込み時に入会の方は、今回から会員料金で参加できます。ぜひ入会をご検討ください。

# 9月16日(日)は、映画とトークで 一日まるごと LGBT セクシュアルマイリティを みんなで学ぶステキな日

**「カラコエの花」**(劇映画:39分)の舞台は高校2年のあるクラス。養護教諭がそのクラスに限って LGBT の授業をしたことからクラス内に疑心暗鬼の波が広がる。こう来るのかァーというラストには驚きの一語！

**「女になる」**(ドキュメンタリー:74分)がとらえたのは神戸の性同一性障害の大学生・中川未悠の性別適合手術前後の時間。性的マイノリティの代弁者・「中川未悠」という生き方を本作+トークで体感してほしい。

**中川未悠(みゆ)**さん:今年4月、神戸の大学を卒業し、アパレル業界で働いている。子供の頃から女性になることを夢見ていた。高校時代に家族にカミングアウトし、大学入学後に女装を開始。女性として社会に出ることをめざして、大学3回生の春休みに性別適合手術を受ける。学生時代に田中幸夫監督に直談判して「女になる」に出演。自身の〈生〉と〈性〉のあり方を広く社会に問う道を選択した新世代の当事者。

**日野由美**さん:1955年、苫小牧で生まれる。性同一性障害についての認識や理解のない時代を生きてきた歴史の体現者であり、当事者活動を切り開いてきた先駆者。加えて、高校教師として、性的マイノリティに対する差別・排除・無理解の実相を学校教育の内側から見てきた観察者である。札幌市が行う LGBT 電話相談の相談員として活動し、さらに、札幌市・石狩五市(千歳・恵庭・北広島・石狩・江別)旭川市などの自治体に「公文書から必要のない性別欄削除」等を要望し、2017年6月開始の「札幌市のパートナーシップ制度」に携わった。HSA札幌ミーティング(北海道セクシャルマイノリティ協会)代表、STN21(性的少数者教職員ネットワーク)会員。

○会場:札幌プラザ2・5

(札幌市中央区南2条西5丁目 狸小路商店街)

○全障研支部学習会参加者は団体料金！

- ・午前の部「カラコエの花」400円
- ・午後の部「女になる」800円

10:00 開場

10:30 「カラコエの花」見どころ解説:二通諭

10:40 「カラコエの花」開映

11:25~12:00 二通諭のシネマトーク「映画の中の性的マイノリティ」

13:00 「女になる」開映

14:30~15:30 さわやかトーク『私は私のままで生きる—映画「女になる」が問うもの—』中川未悠・満島てる子・日野由美 司会:二通諭

16:00 「女になる」開映~17:20

**二通諭(につうさとし)**さん:67歳。札幌学院大学人文学部人間科学科教授。特別支援教育の実践的研究に加え、障害者・マイノリティ映画のもつ意味、役割を探究。

**満島(みっしま)てる子**さん:1990年、三重県桑名市で生まれる。北海道大学文学研究科思想文化学専攻修了の後、2017年より「7丁目のパウダールーム」に店長として就任。2018年から、札幌市にてレインボーパレードの開催を目指す団体「さっぽろレインボープライド」の実行委員。性自認は男性、性指向は男性。世間で言う「ゲイ」の枠組みに入るが、日常的に女装をし、男女という二分にとらわれないかたちで生活。大学院では主に古代ギリシア・ローマの文化や思想を研究。論文に「プラトン「場所」論における現象の二側面」、近藤智彦氏との共訳に「アプロディシアスのアレクサンドロス『運命について』」など。副専攻はジェンダークイア理論。2017年の北大のテーマトーク企画にて、「ゲイコミュニティと「善良なる市民」—ハッテン銭湯問題を手がかりに—」を発表。2015年から札幌にて「てるまる・ノエビア」という芸名で、ドラァグクイーンとして活動開始。北海道のみならず、東京や名古屋にもパフォーマーとして出向し、LGBTのアンダーグラウンドな文化の担い手となるべく尽力。